	· ·	令和6年度		字社	父評恤報告書	評価報告書			大牟田市立宅峰中学校 (NO1)
当	校教育目標	未来を生き抜く力(徳・知・体)と社会性を併せ持つ生徒の育成			重点目標		学ぶ意欲を持ち、自ら進んで課題解決に取り組む生徒の育成		
		評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	<u>\$±</u>	結果(成果○と課題△)		コメント	次年度における改善策(案)
	○確かな学力の向上	◇ 学ぶ意欲を持たせるために生徒に授業の見通 しをもたせ、生徒の考えにもとづくめあての 提示と生徒が学んだことが分かるまとめの設 定。	(生徒授業アンケート) (項目①⑤) (職員:教育課程評価) (項目⑥) 学ぶ意欲と進んで課題に取り組む授業 ⇒ 3.3以上	4	徒の授業アン を比較しほほ ○ 公開授業を進	数善への意識も少しずつ高まり、生 ンケートと教師のアンケートの結果 ま近い数値となった。 進めていく中で教師の授業改善のエ	A * 宅峰中(教育的)	 学校の評価は適切である。 宅峰中の周囲には動物園、市民体育館、市立図書館などの教育的施設が多くあるので、それらを活用していただきだい。 	・生徒の学力向上のためにどのように ICTを活用したら良いか内容を焦点 化して取り組むために、担当者を中 心に協議する場を設け、好事例をも
		各教科の授業の中で対話活動の場面を自分の 考えを書く活動を中心とした場を設定する。 (宅峰「さしすせそ」の実践) 「自分の考え」「根拠となる叙述」と「その理 由」を取り入れた書く活動を取り入れている。(宅 峰授業「さしずせその実践」) ⇒ 32以上(75%)	4	△ 授業改善を 焦点化する』 △ 空き教室が に応じた指導	き。(ICTの活用) 能める中で、改善ポイントをさらに 必要がある。 ないという課題があるが、やはり個 等・支援を推進していくためには少 業が必要である。	A	 授業改善はとても大切なことで学校全体で共通実践していくことが必要です。 空き教室がないという課題はあるものの、そのような状況の中でも生徒一人ひとりの特性に配慮した授業改善に取り組まれていると感じています。 家庭学部時間を増やすにはPTAとの連携は必須だと思いますが、生徒への意識づけを実践された教職員への評価は高すが、生徒への意識づけを実践された教職員への評価は高 	とにした職員所修を実施していく。 常日頃から家庭学習の大切さの周知徹底を図 り、PTAの会議でも学校と家庭と の連携のあり方を協議しながら改善 案を検討していく。	
重		◇ 教科担当者と指導工夫改善教員の連携を図 り、個々の学力や実態に応じた支援・指導を 充実させる。(個に応じた指導の充実、CD 層の引き上げ)	(職員:教育課程評価) (項目®) 指導方法の工夫改善や個に応じた指導の充実に務める⇒ 3.0以上	3	△ 家庭学習時間 ているが、	間については、昨年度よりは改善し 家庭学習の習慣化に向けてPTAと連 として進めていく取組を行うことが	Α	いと思います。 ・ 指導方法の改善や工夫は永遠の課題ですので、継続して取り組んでいくことが大切だと思います。	
点目		◇ 基礎学力向上のために家庭学習習慣の定着を 図るため保護者への周知を推進する。	〔生徒授業アンケート〕(家庭学習時間) 1時間以上家庭学習する生徒⇒ 70%以上	4			Α		
標に	〇主体性、社会性、 人間関係力の向上	 → 道徳料の時間の充実を図る。重点項目:「思いやの、感謝」「相互理解、寛容」「公正・公平・社会正義」「社会参画、公共の精神」 ◆ 人権・同和教育の視点に立った学年・学級づ 	「職員:教育課程評価)(項目1007位) ⑩計画に沿って実施①副誘本の活用②道徳性を高める指導の工夫⇒3.0以上 「職員:学校評価」(項目値)	3	在り方についることができ	を持的生徒指導の視点に立った生徒指導の 対について、校内研修を行い共通理解を図 とができた。今後も研修を重ねながら理解 かる必要がある。	Α	 学校の評価は適切である。 適管制は大変難しいと感じます。まずは大人・教師が手本を示す部分があると思います。 適億の時間では体験等を通した自己を見つめることができる授業が展開できるよう研修等が必要だと思います。 	 発達支持的生徒指導について、支える生徒指導の理解を深め実践できるようにするために、次年度においても生徒指導提要(改訂版)の内容を中心に職員研修を継続して行う。
関		くり(心の居場所づくり・安心・安全な風土の醸成)を行う。 ◇ 教育活動に積極的生徒指導(自己決定・自己)	⑥生徒にとって「心の居場所づくり」や「一人一人が大切にされている」ことを心がけている。⇒3.3以上 「生徒指導アンケート」(項目(1))	3		こおける指導について問題解決的な 内な活動など多様な指導の工夫をす る。	Α	・生徒を取り巻く環境(家庭)にも気配り、目配りをしながら個々の自主性を尊重しようとされる教職員の姿勢には感謝しています。今後も宅峰中らしい、宅峰中しかできない	・ 「安心を全な学級づくり」「心の居場所づくり」等については不登校やいじめのない学校づくりのために必
する			①生徒指導の4つの留意点を全教育活動に浸透させる ⇒ 33以上 【職員:教育課程評価】(項目(4)生徒が課題に対	4	△ 若年教師が を実施しなが 図っていく」	曽える中、生徒指導に関する研修等 がら積極的生徒指導について推進を ※要がある。	Α	熟意ある指導に取り組んでいただけるようお願いします。多様な個性を尊重しながらも社会性を身に付け、相互理解し合える関係性を育む教育は伝えるだけでは定着しないと	要不可欠なことであり、さらに教職 員の意識や取組を充実させていくこ とができるように、今後も学校経営 の重点課題とし、ソーシャルスキル
評		主体的・協働的に取り組んでいくことができる態度や資質の向上を図る。	し主体的・協働的に活動するよう企画・運営及び指導している。)⇒3.2以上	4	通して課題的る。	図の時間等における体験的な学習を 解決学習を推進していく必要があ	A	思います。	トレーニングを取り入れた取組を行 う。
Ш	○教職員の組織運営 の確立と協働体制の 推進	◇ 定例的に運営委員会・生徒指導委員会等を開催し、組織運営の中で見通しを持って諸活動の推進を図る。	〔職員:学校評価〕(項目®)③教育活動において重点目標を意識しながら見通しを持って運営にあたっている。 ⇒3.0以上	4		いては早期にそれぞれの企画委員会 役割分担等を話し合い計画的に運 ができた。	A	 学校の評価は適切である。 学校は情報発信について良く行っていると思います。 生徒が主体となって開催する行事は生徒自身もやりがいを感じ成長します。体育会は見事でした。この伝統をさらに 	 組織的な対応をさらに充実させるために、学年部会や校務分掌内で協議 しながら、役割分担等を明確にして 負担軽減に取り組む。
		◇ 分掌部会内における情報の共有を確実に行い、協働的な取組と分掌部会、学年部会等における縦横の連携を図る。	「職員:学校評価)(項目(4) (3分挙部会、学年部会において、情報共有を確実に 行い、組織的・協働的に取組を行っている ⇒3.2 以上	4	割分担につい要がある。	負担を減らすために副担任のとの役 いて検討し、業務の見直しをする必	Α	発展させ、挑戦する機会を生徒に与えてほしいと思いま す。	 職員間で情報共有をする中で、見通 しを持った取組の確認や評価を行 い、効果的な実践につなげていく。
	〇地域に開かれ、信頼される学校づくり	◇ 学校行事等の参加や相談体制を充実させ地域 や保護者との連携を推進する。	〔保護者アンケート〕 (項目⑩⑪)相談しやすい、保護者の期待に応える⇒ 3.4以上	2	ができた。	学校通信等、積極的に発信すること い雰囲気、保護者の期待に応える学	Α	 学校の評価は適切である。 相談することを苦手とする方々も存在するかと思われます。現在、相談体制も確立できていることからSSWやSCの積極的な活用を再周知することも必要かもしれません。 	学校の取組や相談窓口の保護者への 周知を徹底し、SSWや地域学校学 校協働活動推進員、PTAと連携し て、地域とのつながりを強くしなが
	01.1°45 F1 5	 	(保護者アンケート) (項目 33) 情報発信している ⇒ 3.3以上	4	校づくりに 真摯に受ける きたい。	関して、保護者アンケートの結果を とめ、次年度の学校運営を行ってい	Α		ら、学校の運営にあたる。
いじ	Oいじめを「しな い、させない、みの がさない」指導体制 の推進	◇ いじめに関するアンケート(月1回のいじめアンケート・学期1回の生活アンケート及び保護者アンケート)を確実に実施し、担任・学年・生徒指導部を中心に早期発見・早期対応に努める。	(学校生活チェックリスト) の実施と結果の確認及 び組織的対応 いじめ、不安の訴えへの対応 ⇒ 100%	4	果についても きた。また、 防止対策委員 とができた。	するアンケートを確実に実施し、結 5全職員で共有し対応することがで いじめ発生時においては、いじめ 員会を開催し、早急に対応をするこ	で め A	 学校の評価は適切である。 日頃の生徒の様子はとても落ち着いていると思います。先生方のご配慮のおかげだと感じています。 保護者の求めていることが微妙に変化しているのでしょうが、内容(保護者の知りたいこと、要望など)の検討が必要かと思います。 	 いじめ防止のために生徒の主体的・ 協働的な取組を生徒会活動を中心に 働きかけ、「いじめを生まない学 級」「心の居場所となる学級」を目 指していく。
8		 いしめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報の共有と相談体制の確立を徹底し、予防と早期対応・組織的対応を行う。 	「環員:生徒指導評価」(項目(2) (②早期に組織的な対応と取り組みに努めている ⇒ 3.3以上 生徒会の取組として、年2回校舎にいじめや差別を しないための降発(言葉を掲示する)を行う。	4		じめの認知件数等を踏まえ次年度に じめを生まない学級集団づくり、心 なる集団づくりへの取り組みを充実 がある。	A A	表がためいます。 たくさんの生徒を誰一人見放さすしっかり関わっていただ きありがとうございます。 先生によって生徒への関わり方に偏りがないように、今後 も組織的な取組をお願いします。	 教育相談がより効果的なものになるように、アンケートの時期について検討しながら進めていく。
	○不登校生徒の個に 応じた支援体制の推 進と望ましい人間関 係づくりと集団づく	○ 校区内の小中学校による教育相談部会の開催 及び校内の教育相談を効果的に行ったり、関 係機関等へつないだりしながら組織的な対応 を推進する。	〔職員:生徒指導評価〕 (項目値) 定期的・効果的な教育組談 → 3.3以上 校区内教育相談部会→ 年3回 不登校・不登校傾向生徒く昨年度より減少>	4	ルームの利用 ・	数についてはわずかではあるが減少	A	学校の評価は適切である。 昨年度よりも不登校生徒数が減少している報告を受け安堵 しています。 担任だけでなく組織的に対応しているところが素晴らしい と思います。 教育相談の時間が足りなかったとのことですが、多忙な中で良く取り組まれていると思います。	・ 不登校生徒や不登校兆候の生徒への よりよいサポート体制を取れるよう に、ハートフルルームの活用につい て見直しを行いながら運用する。
不登校	り (未然防止の取 組)	◇ 学校行事や生徒会活動を通して、人間関係力 の向上に努める。	「職員:生徒指導評価〕(頃目句)学校行事や生徒会活動で課題解決に向けて主体的・ 協働的に取り組んでいる。 ⇒ 3.3以上	4		かできた。 ついては十分な時間が取れなかった から、次年度は十分な時間を確保し	Α		 教育相談については、一人一人の悩みに十分に応えられるよう時間を確保する。 不登校を生まない集団作りに取り組
		◇ 不登校やいじめを生まない集団(「大切にされる」「心の居場所」)づくりを推進する。	(職員:生徒指導評価) (項目③) いじめや不登校を生まない安心安全な風土 (心の居 場所となる) の醸成に努めている。⇒ 3.3以上	4		要がある。	Α		んでいくことができるように、SC やSSWと連携しながら気になる生 徒の情報交換を蜜に行っていく。
働	〇市の働き方改革取 組指針に沿った働き 方改革の取組の実施	 業務改善検討委員会による業務内容の見直し と共通認識を行う。 ◇ 学校閉庁時間、学校閉庁日、部活動休養日、 	業務改善検討委員会を定期的に実施し、教職員の意 見を聞きながら改善を積極的に行う。 水曜日午後の効果的な活用と学校閉庁時間、学校閉	3	〇 平日の部活動	月10%の削減ができた。 動休養日、学校閉庁日(部活動中 全・周知を行い、確実に実施するこ	A	 学校の評価は適切である。 10%削減は素晴らしいです。 成果が現れてすばらしいと思います。 多忙な学校現場で教育の質の担保をしながらの業務の改善 	 時間外の削減には目標を達成できたが、今後、さらに業務改善やICTを活用した会議等を取り入れながら時間外削減に取り組む。
き方改革		学校定時退校日の設定と水曜日午後の効果的 活用。	庁日、土日の部活動について教職員(管理職による呼びかけ)・保護者への周知と確実な実施。	4	△ 個別の対応 勤務時間の能 持たせながら	で声掛けや指導を行いながら時間外 削減に取り組んできたが、見通しを ら仕事を行うことがなかなかできな	Α	に取り組むのは困難を極めることだと思いますが、教職員 が心身ともに健康でいることは、学校運営や生徒への指導 に良い影響を与えるものだと思います。	 主任・主事の時間外勤務が多かったことを踏まえ、学年内での役割の在り方についても改善を図っていく。
_	評価について	◇ 各個人の月ごとの時間外勤務時間を把握し、個別の面談を行い改善を図る。・【自己評価】 4:目標達成(90%)	昨年度より10%の削減を目指す。管理職による職員の体調管理と勤務時間の把握を行い、個別の声かけや指導を行う。	4	かった。今後 していく必要	後は見通しを持たせるための工夫を 要がある。	A	・ 先生方の心身の安定が一番大切です。	

 ◇ 評価について
 ・【自己評価】
 4:目標達成(90%以上)
 3:ほぼ達成(70%~90%)
 2:もう少し(60%~70%)
 1:できていない(60%未満)

 ・【学校関係者評価】
 A:自己評価は適切である
 B:自己評価は上方修正すべきである
 C:自己評価は下方修正すべきである